

カメルーン★どうでしょう

2023年3月
JICA 海外協力隊
カメルーン通信
出町 卓也
Numéro. 5

Les fêtes de février au Cameroun.

Bonjour! カメルーンからでまちです。先日エゼカは水道管の不具合が原因で2週間ほど断水がありました。井戸で水を汲んでは家のペットボトルに貯め、残りの水量を考えながら、料理、洗濯、水浴びをする…という日々でした。日本では当たり前に出てくる水ですが、ここで生活していると急になくなることもあるため、出た時のありがたみを感じます。

そんな日々の中、自分を励ましてくれるものの一つに、いただいたお守りがあります。日本にいた頃、私はよく神社を訪れました。あの空間に居ただけで心が落ち着き、お参りをして決意を伝えると考えがまとまるからです。今はこれらのお守りを見て、落ち着きをもらい、その日の目標を考えています。

さて、先月はイベントがたくさんあったので、今回はその紹介をします。



日本の文化を紹介する『日カメ EXPO』

他地域の隊員が活動する小学校で開催された、日本文化紹介イベントに参加しました。私たち隊員は日ごろの活動で日本文化を紹介する機会はなかなかないので、このような交流の機会は貴重でした。今回は折り紙、お箸の使い方、手裏剣投げ、外遊び、〇×クイズ、写真展、ダンスなどを実施しました。最初の説明を聞くと、各ブースへ一目散に走っていった子どもたち。すでに大興奮でした。



私が担当した手裏剣投げでは、的の穴に向かって手裏剣を投げるゲームでした。それぞれが日本の某キャラクター（カメルーンでは日本のアニメやマンガがとても人気が高いです）を思い出しつつ、楽しそうに投げていました。投げた手裏剣が穴を通ると飛び上がって喜んでいました。中には投げ終わった手裏剣を拾い集めて渡してくれる子、的と一緒に支えてくれる子が現れ、協力してゲームを楽しむことができました。



せっかくなので、待ち時間とおもちゃの刀を使って、剣道も披露しました。いつか紹介したいと持って行った剣道着。やってみると興味津々な子どもたちにすぐに囲まれてしまいました。中には剣を借りて立ち向かってくる子も。日頃は触れる機会のない異文化。子どもたちにとって、カメルーンだけでなく、様々な世界があることを感じられるいい経験になればいいなと思います。

学生が一斉に行進する『青年の日』

日本では建国記念の日である2月11日。カメルーンでは青年の日という祝日です。町にあるすべての学校が一斉に会し、行進をします。これが国中で行われるという、一大行事です。当日は大統領のボイスメッセージが届き、フランス語英語両方で司会進行が進められるなど、ものすごい熱量です。

このために学校は1週間かけて準備をします。行進やダンスの練習はもちろん、校内でのダンス大会も開催されました。11日の本番までに町の各地で事前イベントも行われ、衣装を着たダンスチームがあちこちへ出向き、踊りを披露していました。

本番では、幼稚園から職業学校まですべての「学校」が参加するため、ものすごく時間がかかります。長いところは3時間を超えたそうです。各校は学校名のプラカードと国旗を先頭に進みます。全員で動きを懸命に揃える幼稚園児から、腕と足を大きく振って歩く小学生。マーチングバンドやダンスチームが行進の前や横で演奏したり踊ったりして盛り上げたりする中高生。見応えのある各校の行進でした。



カメルーンの祝日は「みんなで何かをやる」というイメージがあります。みんなで一つのものを作って、楽しんで、たくさんの人たちと関わる。日本の祝日とはまた違いますね。最近すっかりそんなカメルーンに馴染みつつあります。それでは、A bientôt !